

2018/2019 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
 - ・ 世界距離別スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL)
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (ワールドカップは別紙参照)
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
 - ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長 (強化担当副部長である 1 名) が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
 - ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
 - ・ 本選考基準において、協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。
1. ワールドカップ第 1 戦帯広大会 (11/16~18、500m~5000m・Ms・TP・TS)・第 2 戦苫小牧大会 (11/23~25、500m~5000m・Ms・TP・TS)・第 3 戦トマショフマゾ **ウ**ィエツキ大会 (12/7~9、500m~**10000m**・TP・TS)・第 4 戦ヘレンベーン大会 (12/14~16、500m~**5000m**・Ms)
 - ※ Ms (マススタート)、TP (チームパシュート)、TS (チームスプリント)
 - ※ 第 3 戦では女子 3000m/男子 5000m に替えて女子 5000m/男子 10000m が実施
 - ※ 男女 500m は、第 1~3 戦はそれぞれ 2 本、第 4 戦はそれぞれ 1 本実施

【選考方針】

世界距離別スピードスケート選手権大会、世界スプリントスピードスケート選手権大会、世界オーラウンドスピードスケート選手権大会及び次年度以降のワールドカップにおける日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (4)、1000m (3)、1500m (4)、5000m (3)、10000m (3)、Ms (2)、TP、TS

女子：500m (5)、1000m (5)、1500m (4)、3000m (5)、5000m (5)、Ms (2)、TP、TS

※ ただし、第1戦帯広大会及び第2戦苫小牧大会は自国開催のためフルエントリー可能となり、男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m及び男子5000mはそれぞれ5名、Msは2名、TP及びTSは1チームとなる。

【選考基準】

対象競技会：第25回全日本スピードスケート距離別選手権大会

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mの派遣選手は、当該種目の最上位者から順に枠数に至るまで選考する。
- (2) 女子5000m及び男子10000mの出場枠のうち、女子2名、男子1名の派遣選手は、女子3000mまたは男子5000mに選考された最上位者から順に選考する（ここで選考された選手は、女子5000m及び男子10000mの派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する）。残りの派遣選手は、すでに選考された者を除く選手の中で、当該種目における最上位者から順に枠数に至るまで選考する。
- (3) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、対象競技会のいずれかの種目に参加した者から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は2番目とする）。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (4) 男女マススタートの正選手各2名（枠順位1及び2番目）と補欠選手各1名は、対象競技会のいずれかの種目に参加した者から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。また、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (5) 対象競技会にエントリーしている選手の内、対象競技会での転倒や一時的な疾病などのアクシデントが認められた場合、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）の協議により、総合的な検討によってその選手を選考する場合がある。その場合、上記(1)～(4)の基準によって選考され

た者の内、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m、男子 10000m では最も下位の順位で選考された選手、男女チームパシュートでは補欠選手、男女マスタートでは枠順位 2 番目の選手が、当該選手との入れ替わりの対象となる。

(6) 男女チームスプリントは、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 1 戦における各種目のエントリー順は、選考基準の記載順序に従った選考順によるものとする。
- ・ ワールドカップ第 3 戦及び第 4 戦の男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m については、派遣 B 標準記録のみ達成して上記 (1) ~~又は(2)~~により選考された選手が、ワールドカップ第 1 戦又は第 2 戦の当該種目においてワールドカップポイントを獲得できなかった場合、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である 1 名）の協議による必要性の判断に応じて、上記 (1) ~~又は(2)~~により選考された選手と、上記 (1) ~~又は(2)~~における次点者（当該派遣選手団外からも可）とで入れ替えを行う場合がある。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ 第 1 戦及び第 2 戦において、自国開催による枠の拡大によって選考された選手は、派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する。
- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントのメンバーとなるためには、当該競技会における個人種目の正選手または補欠選手である必要がある。
- ・ 本競技会（第 1～4 戦まで）は、当該年度の世界距離別スピードスケート選手権大会、世界スプリントスピードスケート選手権大会及び世界オールラウンドスピードスケート選手権大会の出場枠獲得対象競技会となる。

2. ワールドカップ第 5 戦ハーマル大会（2/1～3、ノルウェー・ハーマル、500m～5000m）

※ 男女 500m はそれぞれ 2 本実施

【選考方針】

世界距離別スピードスケート選手権大会を見据えて、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。また、次年度以降のワールドカップにおける日本の出場枠の維持・拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (4)、1000m (3)、1500m (4)、5000m (3)

女子：500m (5)、1000m (5)、1500m (4)、3000m (5)

【選考基準】

対象競技会：第 86 回全日本スピードスケート選手権大会、第 42 回全日本スプリントスピードスケート選手権大会

(1) 男子の 1000m、5000m におけるそれぞれ 3 名、男子の 500m、1500m 及び女子の 1500m におけるそれぞれ 4 名の派遣選手は、以下の手順で選考する。

① 各種目 1 名の派遣選手を、ワールドカップ第 4 戦終了時における、当該種目の世界距離別スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL) の順位が 3 位以内の場合、対象選手をランキング最上位者から順に選考する。

② 残りの選手は、男子 500m 及び 1000m においては第 42 回全日本スプリントスピードスケート選手権大会における当該種目 1 本のタイムの最上位者から、男女 1500m、男子 5000m においては第 86 回全日本スピードスケート選手権大会における最上位者から、上記①で選考された選手を除いて順に枠数に至るまで選考する。

(2) 女子の 500m、1000m、3000m におけるそれぞれ 5 名の派遣選手は、以下の手順で選考する。

① 各種目 2 名の派遣選手を、ワールドカップ第 4 戦終了時における、当該種目の世界距離別スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL) の順位が 3 位以内の場合、対象選手をランキング最上位者から順に選考する。

② 残りの選手は、女子 500m 及び 1000m においては第 42 回全日本スプリントスピードスケート選手権大会における当該種目 1 本のタイムの最上位者から、女子 3000m においては第 86 回全日本スピードスケート選手権大会における最上位者から、上記①で選考された選手を除いて順に枠数に至るまで選考する。

(3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

3. 世界距離別スピードスケート選手権大会 (2/7~10、ドイツ・インツェル)

【選考方針】

世界距離別スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第 1~4 戦までのポイントランキング及びタイムランキング (SQRL) により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、5000m (3)、10000m (2)、Ms (2)、TP、TS

女子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、3000m (3)、5000m (2)、Ms (2)、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第 86 回全日本スピードスケート選手権大会、第 42 回全日本スプリントスピードスケート選手権大会

(1) 男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m、男子 10000m での日本

が獲得した出場枠数（2018年12月中旬頃にISUから通知される予定）において、3枠のときは2名、2枠のときは1名、1枠のときは1名の派遣選手の選考は、ワールドカップ第4戦終了時における、当該種目の世界距離別スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト（SQRL）の順位が3位以内の場合、対象選手をランキング最上位者から順に選考する。残りの出場枠は、男女500m及び男女1000mにおいては第42回全日本スプリントスピードスケート選手権大会における当該種目1本のタイムの最上位者、男女1500m、女子3000m、男女5000m、男子10000mにおいては第86回全日本スピードスケート選手権大会における最上位者から順に枠数に至るまで選考する。

- (2) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、当該年度にワールドカップ代表（個人種目含む）となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、ワールドカップ第1～4戦における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (3) マススタートの派遣選手は、ワールドカップ第4戦終了時点におけるワールドカップポイントランキングの最上位者を選考する。出場枠が2名だった場合、残りの1名は、当該年度に当該種目においてワールドカップ代表となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。ただし、この残りの1名の選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (4) 男女チームスプリントは、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団、ワールドカップ第1～3戦におけるチームスプリント出場選手又はワールドカップ第5戦における500m、1000m、1500mのいずれかの代表選手の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ SQRLにおけるリザーブリストの活用による出場枠の再配分がなされた場合、この時点において、出場可能な選手を、移動にかかる時間的な制限（フライト予約等）を含めて総合的な検討を加えながら、選考する。なお、この枠の再配分は、ISUルールに従い、最終、当該種目実施前日のチームリーダーズミーティングにおいてなされ、出場の可否が決定される。
- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、必要に応じて行うものとする。
- ・ 各種目（マススタート、チームパシュート及びチームスプリントを除く）における正選手と他選手

(当該派遣選手団における出場可能な選手)との入れ替えは、ワールドカップ第5戦の成績やドクターの意見などを総合的に検討し、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長(強化担当副部長である1名)が、必要に応じて行うものとする。

4. 世界スプリントスピードスケート選手権大会(2/23~24、オランダ・ヘレンベーン)

【選考方針】

世界スプリントスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子1名、女子1名

※ ただし、ワールドカップ第1~4戦の成績により、男女ともに最大3名まで出場枠が増える場合がある。枠の付与は、500mと1000m(いずれもタイムの良い1本)のタイムの合計ポイントを算出し、その順位に基づいて決定される。

【選考基準】

対象競技会：第42回全日本スプリントスピードスケート選手権大会

(1) 対象競技会における500mと1000m(いずれもタイムの良い1本)のタイムの合計ポイントを算出し(ISUルール第265条3項に従う)、その最上位者から順に、以下の順で枠数に至るまで選考する。

- ① すでに付与されている出場枠(男女各1名)
- ② ワールドカップ第1~4戦の成績によって増えた出場枠

(2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

5. 世界オールラウンドスピードスケート選手権大会(3/2~3、カナダ・カルガリー)

【選考方針】

世界オールラウンドスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子0名、女子2名

※ ただし、ワールドカップ第1~4戦の成績により、男女ともに最大3名まで出場枠が増える場合がある。枠の付与は、1500mと女子は3000m・男子は5000mのタイムの合計ポイントを算出し、その順位に基づいて決定される。

【選考基準】

対象競技会：第86回全日本スピードスケート選手権大会

(1) 対象競技会における 1500m と女子は 3000m・男子は 5000m のタイムの合計ポイントを算出し (ISU ルール第 265 条 3 項に従う)、その最上位者から順に、以下の順で枠数に至るまで選考する。

- ① すでに付与されている出場枠 (女子 2 名)
- ② ワールドカップ第 1~4 戦の成績によって増えた出場枠

(2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

6. ワールドカップ第 6 戦 (最終戦) ソルトレークシティー大会 (3/9~10、アメリカ・ソルトレークシティー、500m~5000m・Ms)

※ 男女 500m はそれぞれ 2 本実施

【選考方針】

ワールドカップ第 6 戦で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第 1~5 戦までのポイントランキングにより、各種目は以下の通り滑走可能選手数が制限される。

- ・ 500m、1000m、1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は最大 12 名 (24 位以内がそれぞれエントリー可能)
- ・ Ms は最大 18 名 (30 位以内がエントリー可能)

【選考基準】

- (1) 個人種目の各出場枠の派遣選手は、滑走可能選手数に相当するワールドカップポイントランキング (500m~5000m は 12 位、Ms は 18 位) 以内の選手を選考する。
- (2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 5 戦終了時に各国のエントリー状況を確認し、エントリー可能範囲内の選手 (500m~1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は 13~24 位、Ms は 19~30 位) を選考する場合がある。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他		カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他
500m	39,60	40,10	500m	35,70	36,10
1000m	1.19,00	1.20,00	1000m	1.11,20	1.12,10
1500m	2.00,50	2.02,50	1500m	1.49,00	1.50,50
3000m	4.19,00	4.23,00	5000m	6.40,00	6.44,00
5000m	7.23,00 又は 4.11,00(3000m)	7.30,00 又は 4.15,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.28,00(5000m)	13.40,00 又は 6.32,00(5000m)

※ 対象競技会は、2017年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、全日本スプリントスピードスケート選手権大会、平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。

【派遣標準記録】

女子			男子		
	A 標準	B 標準		A 標準	B 標準
500m	38,41	39,96	500m	35,05	35,67
1000m	1.16,57	1.19,38	1000m	1.09,58	1.11,23
1500m	1.58,02	2.01,44	1500m	1.47,12	1.49,36
3000m	4.07,93	4.16,21	5000m	6.23,01	6.34,39
5000m	7.12,38	7.28,25	10000m	13.18,15	13.46,71

※ 対象競技会は、2018年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。

※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2016年度及び2017年度WC（カルガリー・ソルトレークシティ以外）の各種目8位のタイムの平均値をA標準、各種目1ポイント獲得順位（男女500m、男女1000m、男女1500mは29位、女子3000m、男子5000mは30位）のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2014年度WCソウル大会、2016年度WCヘレンベーン大会及び2017年度WCスタヴァンゲル大会の各種目8位のタイムをA標準、各種目1ポイント獲得順位（いずれも26位）のタイムをB標準とした。

※ Msの派遣標準記録は1500m～10000mまでのいずれか1つを対象とする。